注意点1 右手

常にピッキングの向きを意識してプレイしよう

このフレーズでは、ピッキングの軌道が2パターン考えられる。図1-aが1＆3拍目のパターン（アウトサイド→インサイド）で、図1-bが2＆4拍目のパターン（インサイド→アウトサイド）となっている。基本的に、この2つの動きが交互に連続して登場しているのだが、1拍目から2拍目に入る際のインサイドが連続する場所と、2拍目から3拍目に入る際のアウトサイドが連続する場所は注意が必要だ。ここでは、ピッキングのダウンとアップが逆転したり、ミスピッキングをしやすいので、ピッキングの向きを強く意識してプレイしよう。ピッキングに関して、非常に混乱しやすいフレーズなので、落ち着いて練習してもらいたい。

図1-a　1＆3拍目のピッキング・パターン

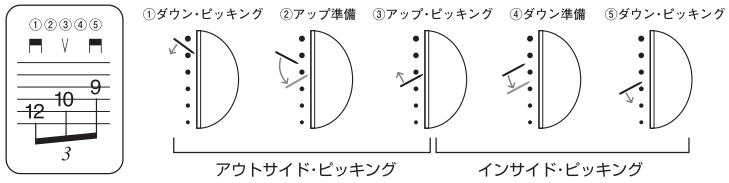
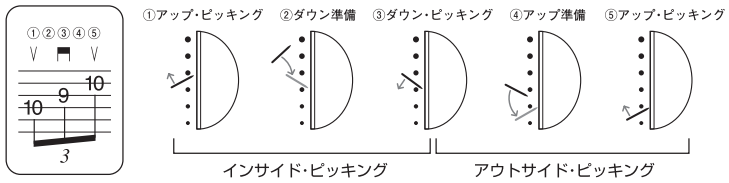


図1-b　2＆4拍目のピッキング・パターン

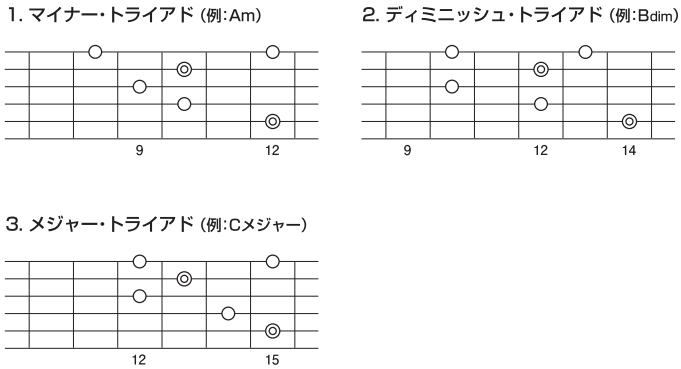


注意点2 左手

速弾きソロの常套句 5弦ルートのトライアド

まず、このフレーズで使われるトライアド・フォームを確認しよう（図2）。この5弦ルートのAmフォームは、メタル系速弾きソロでは頻繁に登場する。そしてもう1つのディミニッシュ・トライアドだが、譜面を見て“あれ？”っと思った人はいないかな？　そう2＆3小節目でこの形が登場するのだが、譜面には2小節目がBm7（♭5）、3小節目がE7という風にディミニッシュではないコードが表記されている。プチ理論講座として説明すると答えは簡単！それぞれ2つのコードには、ディミニッシュの要素が含まれているのだ。最後に図には、メジャー・トライアドも紹介してあるので確認しておこう！

図2　5弦ルートのトライアド・ポジション ◎ルート音



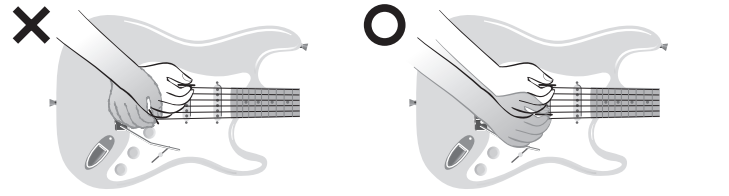
～コラム13～

地獄の戯れ言

サウンドを激変させる右手の上手な使い方

弦に対するピックの角度や位置を変えることは、サウンドに大きな変化を与える。弦に対してピックを平行に当てれば当てるほど自然な響きが得られ、角度をつければつけるほど弦をこすったようなノイジーな音が得られるのだ。そしてブリッジ側で弾くと硬めのトーンになり、ネック側ではマイルドなサウンドになる。さらに手首の使い方を注意することで、より良質のトーンが得られるようになるぞ。弦移動が多いフレーズなどでは、手首の位置を移動させていくと、ピッキング・アングルが安定し、均質なサウンドを出せるようになる（図3）。常にピッキングの位置や角度、手首の位置を意識しながら弾こう。

図3　手首の位置について



手首の位置を固定したままだと、1弦を弾く時にはピックと弦のアングルが垂直気味になる。これでは良い音は得られない。

弾く弦によって手首の位置を変えている。この場合、ピッキング・アングルが安定するので、均等な良い音が得られるのだ。